

2013年(平成25年) 11月9日 土曜日

薬物依存体験語りと音楽で

薬物依存体験を語りと音楽で表現する「セルフ・ストーリー・オペラ」が12月21日午後6時半から、音更町内の木野コミセン(木野西通8)で開かれる。同依存症からの回復を支援するNPO法人とかちダルク理事長の宿輪龍英さん(50)が当事者として、音楽パートの十勝などのミュージシャンらと共に出演する。全国的にも例がない試みに、宿輪さんは「薬物依存に限らず、生きづらさを感じている人に希望を伝えたい」と意気込む。

来月21日「セルフ・ストーリー・オペラ」公演

同オペラはミュージシャンのAKIRAさん(50)に合った音楽を演奏する。栃木県在住IIが取り組む表現方法。何らかの苦しい体験などが原因で生きづらさを感じている人が人生を語り、各地で公演している。薬物

とかちダルク 宿輪理事長 「生きる希望伝えたい」



「お客さんの反応が楽しみ」と話す宿輪さん

依存者が語るのは初めて。宿輪さんはAKIRAさんの表現方法に興味を持ち、今年2月、音更町内で開かれたAKIRAさんのライブを見に行った。そこから交流が始まり、出演の運びになった。当日は、幼少の佐々木源市さん(ベール)の両親の離婚と養子としての生活、覚せい剤の多用や複数回の受刑生活、ホームレス体験や精神障害に苦しんだ経験、ダルクでの活動など、半生をありのままに語る予定だ。学校や刑務所などで講演活動を行っている宿輪さんだが、音楽との共演は初めて。「自分でもどういふものになるか分からないが、話だけでは伝え切れないものが伝わるかもしれない。」

0・6074・3510 (丹羽恭太)

十勝毎日新聞に掲載された記事です。
 お時間のある方は是非いらっしやってください。

この新しいチャレンジは、どうなるのか私でさえわかりません。

ですが、きっと何か面白いことになることと確信しております。

